



2018.3 桜まつり



2019.7 緑ヶ丘コンサート



2019.5 柳川公園植栽



2019.2 交通安全教室



2019.7 歌声サロン



2018.11 防災訓練

緑ヶ丘・仙川 まちづくり協議会通信

No.57 2021.7 発行

コロナ禍だからできたこと、見えたことをこれからに生かす。

令和3年度 ごあいさつ 会長 田中次郎

「緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会」の総会は、コロナウィルス感染拡大によりコンサート、防災訓練、桜まつり等々各行事中止となる中、2年続いての書面による総会となり、活動報告、収支決算報告等審議のうえ、無事承認されました。令和3年度の活動方針、予算も皆さんの承認を得て、新年度スタートいたします。

昨年度の予算の一部で防災ヘルメットを15年ぶりに交換、また、掲示板の鏡板も痛んでいるのを取り替えました。コロナウィルス感染防止のため地域の皆様と、心触れ逢える行事がなく【ぬくもりと活力ある豊かな地域をめざして】をまもるため、仙川に鯉のぼりをあげたいとの声上がり、都の河川局の許可を取りました。こいのぼりはどうする、誰が描くなど色々な意見があり、まずは緑小の児童、八中の美術部にお願いしました。無地の鯉のぼり約400匹です。3月に渡して、4月に仙川にロープを張り、鯉のぼりを泳がせました。仙川保育園にも5引渡し、また、一反もめん、疫病退治を願ってアマビエも描きました。多勢の人が喜んで写真を撮っていて、保育園児も見に来ていました。来年もよろしくお願いしますという、声が多くの人から上がり、まちづくり協議会の大きな目的、地域のふれあいができたと思いました。

本年も緊急事態が延長され、色々なイベントが秋以降に持ち越されますが、皆さんと大きな声で話し、笑える日が早く来ることを願っています。



2020 仙川鯉のぼり流し





2020 年度 仙川鯉のぼり流し

コロナ禍から生まれた新しい事業

未来を創る鯉のぼり流しに

2020 年度、新型コロナウイルス感染防止対策のため、全ての事業が自粛となる中、今だからこそできることを模索。仙川に子供たちが絵づけした鯉のぼりがたなびくことになりました。

自粛時間をどう捉えていくか

昨年 3 月に発令された緊急事態宣言以降、各団体、事業を全て中止し、感染防止に努めてきました。ただ、事業を通してこれまで積み上げてきたものを継続したいという気持ちは誰の中にもあり、最後の事業となる桜まつりも中止になった時には仕方がない思いとやるせない気持の両方がありました。その中で発案された「仙川鯉のぼり流し」は感染対策も取れ、瞬間に企画がまとまりました。

子供たちの鯉のぼりが人々を繋げた

緑ヶ丘小学校の全児童と、第八中学校の美術部の皆さんに描いてもらった 400 匹以上の鯉のぼりは、2 週間と期間を定めて仙川に展示しました。自分の鯉のぼりを見つけて両親に教えている子。お散歩をしている園児たちは一反木綿を見つけてみんなで「ゲゲゲの鬼太郎」を歌っていました。遊歩道のベンチに座っていたお年寄りのご夫婦は「いいわねえ」と、鯉のぼりの取り付け作業をい

つまでも眺めていました。わざわざ自転車を降りて写真を取っている人、偶然通りかかって驚いている人、目にした人がみんな「いいですねえ」と目を細めてくれました。



まちづくり協議会からの作品は、コロナ終息を願う「あまびえ」と「一反もめん」

自然が可視化。改めて仙川を見直す

朝の日差しを浴びた子供たちの鯉のぼりはとても元気にたなびいているように見え、夕日の時刻にはたゆたうようにのんびりと感じました。強風豪雨にも何度も耐えました(2 匹救出、綱に戻しました)。当たり前の風景に命が宿ったように、風や光を感じ、自然と一体になれたように感じました。鯉のぼりを通して仙川が、この地域の人たちを繋いでいたのだと、実感することができました。

地域の安定が新しい時代を創り出す

ご協力いただきました緑ヶ丘小学校の児童・教職員・PTA のみなさま、健全育成・地域ボランティア・バックアップーズのみなさまありがとうございました。この事業の全てが地域の方々の手作りによるもので、携わったみなさんが作業そのものを楽しんでくれました。その想いが見て頂いた方々に伝わったのだと思います。また、「ポスターに弁天橋とあったが見えなかった」「宅添橋の上での見学は、車の通行が危なかった」とのご意見もいただきました。

地域の人たちが皆優しい気持ちになれたこの事業が、未来への礎となるように、緑ヶ丘・仙川地区が未来に向けて一歩歩き出したような気持ちになりました。



八中美術部と緑ヶ丘小学校全児童の見事な絵に感動しながらの作業でした。

無地の鯉のぼりに絵づけをしてくれた皆さんから感想をいただきました。



仲間たちと協力して、わくわくしながら創った鯉のぼり

調布市立第八中学校美術部 2 年伊藤うるは

今回は、仙川鯉のぼり流しのお話をいただき、とてもうれしかったです。最初鯉を見たとき、大きさが違って面白かったです。私は部の仲間と一緒にヒレのついた大きい鯉に挑戦しました。デザインをどうするかを考えた結果、一面は星空、一面は夕焼けにすることにしました。制作中、お互いに意見を出し合い、足りないところを付け加え、良い作品に仕上がったと思います。私たち 2 年生だけでなく、先輩と、入部したばかりの 1 年生も一緒に制作をしました。みんなとよく協力し、良い作品ができ、先輩方はとても楽しそうに制作に取り組んでいました。今回の鯉のぼりの制作はとても楽しく、わくわくしたので、来年も是非参加したいと思います！

興味津々！緑の子たちは初めての経験に笑顔がいっぱい！

緑ヶ丘小学校 図工専科 武田英子先生

絵づけができると聞いたとき、子供たちはとてもうれしそうで、仙川に飾られることを知ると、さらに「かわいい鯉のぼりにしたい！」「おしゃれに作りたい！」などと、とても肯定的に捉えていました。低学年は上学年が作った鯉のぼりを参考にしながら、鱗の模様を工夫したり、裏と表で模様を変えてみたりして、自分なりのアレンジを加えたりしていました。油性ペンと色鉛筆で、休み時間にじっくりと色付けを楽しむ児童もいました。

仙川に泳ぐ鯉のぼりのことは、どの学年も自然と話題に上がり、家族で見に行き、記念に写真を撮った子もいました。橋の奥までどうやって取り付けたのだろうと、知りたがる子もいました。常に子供たちと楽しみながら取り組むことが出来、仙川に泳ぐ姿は想像以上に素晴らしく感動いたしました。



八中美術部のみなさんの制作風景



両面で一つの作品。ここでは片面をご紹介



写真提供：地域学校協働本部 福田なお美さん

緑小児童の作品です。
全部載せられなくて残念です



川上のさらに川上鯉幟

緑ヶ丘小学校 鳥居圭校長先生

この度は、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会主催の「鯉のぼりし」に、緑ヶ丘小学校にも声をかけていただき、ありがとうございました。本校児童は、色鉛筆などを使って、鯉のしっぽにリボンを描いたり、うろこに模様をつけたりと、みんなとても楽しそうに鯉のぼりづくりに取り組んでいました。「鯉のぼり」は、「黄河の急流にある滝の試練を乗り越えた鯉が龍になった」という故事が由来だそうですが、今回の「鯉のぼり流し」には、コロナの試練を乗り越え、元気を出していこう、みんなで力を合わせて、一緒にがんばっていこう、という地域の皆様方の強い思い、願いを感じます。コロナ禍でなかなか思うようにならない私たちを励ますように泳ぐたくさんの鯉のぼりは、まさに壮観の一言。見ていて「ああ、一人じゃないんだ」と感じたのは私だけではないと思います。緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会をはじめとする地域の皆様、本当にありがとうございました。

Question??

まちづくり協議会って？その役割は？

A 全ての人が運営委員？！ 住民の自発的な街づくりの為に

街を作るのは行政の仕事ですが、住みやすい街を創るのは、私たち住民です。でも個々の意見はどうしたら反映されていくのでしょうか。

個人や 1 つの団体だけでは対応が困難な課題は、地域で協力しながら取り組むのが効果的です。まちづくり協議会は地域のことをみんなで話し合う場所。地域力を高めるために作られた組織です。住民の誰でもが「地域の街づくり」に参加できます。だから地域住民全てが運営委員なのです。

A 『まち協』の肝は ネットワーク組織

緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会のメンバーは自治会・小・中学校・各PTA・交通安全協会・市民活動支援センター・社協 地域福祉コーディネーター・開放委員会・健全育成委員会・児童館・保育園・消防団・地域包括支援センター・緑ヶ丘郵便局・民生児童委員・保護司・ボーイスカウトと 10 名以上の有志で構成されています。

まちづくり協議会は団体の上に立つ組織ではなく、団体同士や地域住民の横のつながりを強くする「ネットワーク組織」です。

A 理想のまちづくり協議会に ネットワーク組織を活かそう

各団体はそれぞれ活動の場を持ち 2 ヶ月に一回の運営委員会で活動報告をします。その時に持ち込まれた話題を、どのように組み取るかが、このネットワークを活かす要となります。そして、運営委員全体が「まちづくり協議会の利点を活かしていく」この共通認識が重要です。



緑ヶ丘・仙川地区に住む人全てが運営委員です。ご存知でしたか？

A 桜まつりにかける想い 向こう三軒両隣の復活なるか！

まちづくり協議会には安全対策・文化交流・環境対策の 3 つの分科会があり、地域にあった防犯・防災やコンサートなど開催しています。毎年 3 月の最終土曜日には緑ヶ丘小学校の大きな桜の下で桜まつりを行います。各団体の出店やサークルの発表会など、手作りのお祭りに毎年千を越す人たちが集まります。出会いがあり、交流が生まれる「場所」を継続することが地域の輪を広げること…。いつか向こう三軒両隣も実現できるかもしれません…！

A 全ては防犯・防災の為に 根底にあるのは安全・安心な街づくり

人と人を繋げる活動は、安心・安全な街を作るためです。もしオレオレ詐欺の電話があっても、ご近所に相談する人がいたり、災害が起こった時にも、闇雲に避難するのではなく、組織的に助け合える地域になるのが理想です。

安心・安全なまちづくりの基本はコミュニティがしっかりしていることです。



A 理想の緑ヶ丘・仙川地区に どんな街にしたいですか？

2001 年に緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会は設立されました。これまでに、この地区独自の防災マップを制作。また、緑色のコミュニティバスが开通しました。コースはこれからも検討していきたいと思っています。住みやすい街にする為にどうしたらいいのか…街をデザインするのはとても楽しいことです。いつかきつと愛着のある故郷へと街は成長して行くのだと思います。自治会に加入していない方も、まちづくりに参加してみてください。

ぬくもりと活力ある豊かな地域を

緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会

